

---

# 令和4年度秋学期 都市創造学部留学プログラム

---

---

# 目 次

---

1. 都市創造学部留学プログラム概要
2. 都市創造学部留学プログラムの  
目的及び成果
3. 留学派遣期間

# 1. 都市創造学部留学プログラム概要

都市創造学部留学プログラムは、本学の内外に開かれたオープンな教育環境の伝統と実績に基づき、中国、インドネシア、韓国、タイ、ベトナムのアジア5カ国に約5カ月間派遣する留学プログラムである。留学生入試で入学した外国人留学生を除き、原則として全員留学必須としている。留学先は入学時に選択した第2外国語の国で、中国は上海の華東師範大学、韓国は釜山の東西大学校、ベトナムはハノイ大学、タイはバンコク大学、インドネシアはジャカルタのインドネシア大学である。条件を満たした場合は、米国留学への振替も可能である。留学先大学で、現地語に加え英語も学ぶ点が特徴である。加えて、日系企業の現地法人・地場企業やその他の団体・NGOなどで約3週間の就業体験を行い、働くことの意義と意味を体得する。

また、留学先都市に関して各自で課題を設定し、フィールドワークを行う。派遣時期は2年次秋学期で、14単位を修得でき、4年間で卒業できるようにカリキュラムが設計されている。

## 2. 都市創造学部留学プログラムの目的及び成果

本プログラムでは、留学先の国語(中国語・韓国語・ベトナム語・タイ語・インドネシア語)を第二外国語として入学時に選択し、1年半の学習をした上で留学先へ出発する。また1年次にネイティブ教員による英語科目が必修化されており、高等学校で学んできた英語学習の積み上げとともに、英語を用いたコミュニケーション能力を留学出発前に伸ばす。

留学中は現地語・英語とも各6単位分の集中的な学習を行い、加えて就業体験とフィールドワークを行う。留学先都市・社会・事業環境の持つ特徴と課題を、会話と観察、現地語・英語メディアの情報源から把握・調査できる能力を培うことを目指す。留学先で得た視点と問題意識をもとに、3・4年次の卒業研究ゼミナールでより生産的な学習・研究ができるようになることも目的である。また、留学先の現地一流大学の学生との交流を通じ、卒業後のキャリアに有益なネットワークを作ることも目指している。

学部開設以降、2018, 2019, 2020年度と2022年度、すでに4回の留学生派遣を行った。2022年度は、希望者のみの変則的形態ながら、新型コロナ・パンデミック後いち早く留学プログラムを再開し、中国を除く5カ国に計55名の派遣を行った。2023年度は全員留学の体制に復帰し、中国語圏に関しては台湾で実施する予定である。

### 3. 留学派遣期間

派遣先大学	出国日	帰国日	派遣人数
インドネシア大学(インドネシア)	2022/09/13	2023/02/05	14
バンコク大学(タイ)	2022/08/14	2023/01/16	2
ハノイ大学(ベトナム)	2022/09/06	2023/02/20	7
東西大学校(韓国)	2022/08/23	2023/01/07	18
			(※アメリカ地域は、AUAP参照)